

小単元名 p.84～91	自然災害からくらしを守る ～地震からくらしを守る～	小単元の 目標	自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、さまざまな備えをしていることを理解できるようにするとともに主体的に学習問題を解決しようとし、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとする。
-----------------	--------------------------------------	------------	---

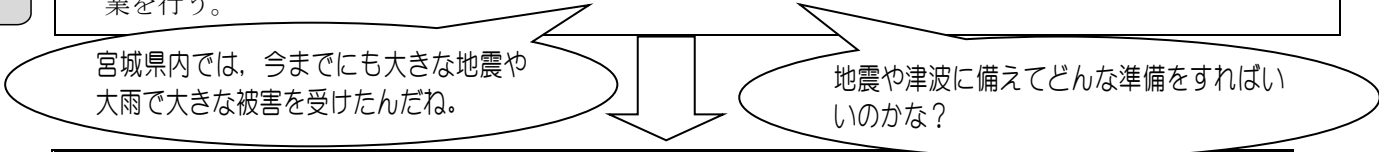
つ
か
む

p.84,85

◎ **宮城県で今までに起きた自然災害** ◎ **東日本大震災の発生**

◎ **地震とわたしたちのくらし**

- ・写真や新聞記事を活用し、過去に県内で発生した地震や大雨の恐ろしさに目を向けさせ、小単元の学習への関心を高める。
- ・東日本大震災によってどんな被害を受けたか、人々の生活にどんな影響があったかなどを、子供たちに話し合わせる方法も考えられるが、現在も心のケアが必要な児童がいることを考え、十分に配慮して授業を行う。



調
べ
る

学習問題
地震からわたしたちのくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのでしょうか。

ま
と
め
る

p.87

◎ **家庭や学校・通学路でそなえていること**

非常持ち出し袋や家具の転倒防止のためのつっぱり棒など、家庭で備えていることを調べさせる。また、防災備蓄倉庫を見学し、学校が避難所になった場合を考えて、準備していることを捉えさせる。

p.88

◎ **仙台市の取り組み**

仙台市では東日本大震災を受けて、津波への対策を進めている。いくつもの対策を組み合わせる多重防御を行っている理由を考えさせることで、安全にくらせるまちづくりを進めていることを気付かせる。

p.89

◎ **関係の協力, 救助・救援活動**

仙台市役所を中心とした地震や津波が起きた時の連絡の仕組みを図にまとめている。関係機関が協力して救助・復旧作業に当たっていることを捉えさせることができる。

地震の発生後には、自衛隊員や消防署員、水道局・ガス局の人など、たくさんの人たちが救助や救援、復旧工事に取り組んだ。

p.90

◎ **地域の協力の様子について調べよう**

連合町内会長さんの話を読み、地域での活動の様子を読み取る。また、東日本大震災の際には日本各地、世界各地から救援の手が差し伸べられた。

p.91

◎ **トピックス**
「むかしからの言い伝え」
地域にある災害の歴史を伝える

※仙台市役所のホームページ→市政情報→ともに、前へ→全国の皆様→フォトアーカイブのページに東日本大震災関連の写真が保存されている。復興の様子についての写真もあるので、ぜひ活用したい。授業で使うためであれば、特に広報課への連絡は必要なし。

p.91

◎ **地震の被害を少なくするために、どんなことができるだろう**

各校にある防災備蓄倉庫や地域ごとの防災訓練を想起させ、自分たちにできることを話し合う。

写真

1978年の宮城県沖地震や2019年の水害等を写真で掲載した。宮城県は東日本大震災以外にも、度々大きな災害に見舞われていることを確認する。

これからも災害が起こる可能性があることを捉えさせ、災害への備えがどのように行われているかについて関心を持たせる。

誌面にはないが、令和3年2月13日に発生した地震を想起させ、被害の状況などを確認することができる。

6 自然災害からくらしを守る



①県内で今までに起きた自然災害



巨大地震（東北地方太平洋沖地震）の概況

- 発生日時
平成23年3月11日 14:46
- 震央地名
三陸沖
- 規模
マグニチュード9.0（暫定値）
- 市内震度
震度6強（宮城野区）
震度6弱（青葉区、若林区、泉区）
震度5強（太白区）
- 津波
太平洋岸に大津波警報発令
津波の高さ7.2m（推定）
※詳細は仙台市発表資料を参照

写真「市内西部の団地」（青葉区）

丘陵地域の宅地で、崩落・地滑り等が発生した。
※昭和30年代後半～40年代に造成

新聞「震災1ヵ月 死者1万3013人」

新聞社では災害時などを想定し、緊急時新聞相互支援協定を締結している。河北新報社も震災当日、紙面制作システムが動かさない事態となり、新潟日報社に号外と翌日の朝刊の紙面制作を依頼し、新聞の発行を続けた。

写真

東日本大震災から10年が過ぎ、震災当時の出来事を知らない児童が増えている。写真を手掛かりに当時の様子を読み取るようにする。学校にも大きな被害が出たことから、災害からくらしを守るための取組について関心を持たせる。



本文「家庭や学校・通学路でそなえていること」

各家庭での備えや地域での備えを写真や文章から想起させ、災害が起きたときにどのように使われるかについて考えさせる。

3人のキャラクターの吹き出し

学習問題「だれがどのようなことを」に対応した言葉。調べ学習の手掛かりとして活用する。

写真

校舎内にある場合は見学に行くようにする。

防災副読本「3.11から未来へ」

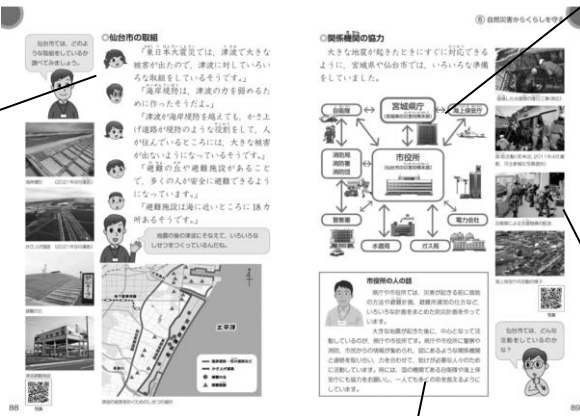
この単元では、防災副読本を活用し、この他の取組についても調べるようにする。

QRコード

水道橋のパンフレットで災害時の給水栓を確認する。

本文「仙台市の取組」

東日本大震災以降に行った津波対策の概要がまとめている。図や写真を読み取ることで多重防御と呼ばれる取組を行っている理由を考えさせ、津波の被害を少なくするための工夫について捉えさせる。



図「関係機関の協力」

仙台市（市役所）を中心とした取組を調べる。関係機関が協力して救助・復旧作業に当たっていることを捉えさせたい。

復旧、救援活動の写真

震災時には、多くの関係機関から救助の手が差し伸べられた。仙台市の災害対策本部からの連絡などがあり、これらの機関が協力して取り組んでいることに気が付かせる。

本文 市役所の人のお話

災害が起こる前、起きた後について市役所の取組を調べさせる。

本文「連合町内会長さんの話」

災害時に備え、町内会では防災組織を作り、物資の備蓄や訓練などを行っていることを捉えさせる。また、災害発生時には地域の協力が不可欠であることを知らせ、自分たちにもできる活動があることに気付かせたい。

写真

給水車の出動、自衛隊による病院の開設、ガスの復旧工事など、震災後の様子を振り返る際の参考にさせたい。

本文「多くの人たちが働いてくれました」

市民のために、多くの人たちがそれぞれの立場で働いていたことに気付かせる。また、その人たちの思いにも触れていきたい。



本文「仙台市地域防災計画」

仙台市では、東日本大震災での経験を生かし、災害のために仙台市地域防災計画を改定した。繰り返される災害への対策に気付かせたい。